

## 「松尾壽之賞」の創設に寄せて

松尾 壽之

この度、片岡医学部長を中心に、関係各位のご尽力により、宮崎大学医学部に「松尾壽之賞」が創設されました。宮崎大学で医学研究に取り組む若手研究者を顕彰し、激励する賞であると聞き及んでいます。私のみでなく、これまで私と共に研究に取り組んで下さった関係諸氏にとりまして、大層光栄であり嬉しいことです。心より感謝申し上げます。

昭和46年(1971年)、米国チューレン大学のシャーリー博士のもとで、LH-RHの構造決定に携わったことが、私の生理活性ペプチド研究の始まりでした。ブタ165,000頭の視床下部を用いて、LH-RHの構造が決定されました。昭和53年(1978年)に(旧)宮崎医科大学生化学第二講座の教授を拝命し、宮崎医科大学の卒業生も私のチームに加わり、独自の方法論により生理活性ペプチドの探索研究を展開することになりました。そして、ナトリウム利尿ペプチド(ANP、BNP、CNP)を含む、多くの生理活性ペプチドを発見し、構造決定することが出来ました。今日、ANPとBNPは、心不全の診断薬や治療薬として、日本や諸外国で用いられており、基礎医学と臨床医学が一体となった研究体制の成果です。その後、国立循環器病センター研究所長を経て、平成14年(2002年)に宮崎医科大学としては最後となった学長職を拝命しました。同年、宮崎医科大学が日本における「生理活性ペプチドと生体制御」の研究拠点として、21世紀COEに選定されたことは、大学の若い医学研究者たちにとって大いなる刺激となったのではないかと思ひ、大きな喜びでした。

あと数年で宮崎大学医学部は創立50周年を迎えます。平成15年(2003年)の大学統合を経ても綿々と引き継がれてきた医学部の研究への熱い想いが、本賞創設の根底に流れていると考えます。本賞が、宮崎大学における若手研究者の励みとなり、医学・生命科学研究の益々の発展と世界への発信につながることを祈念します。